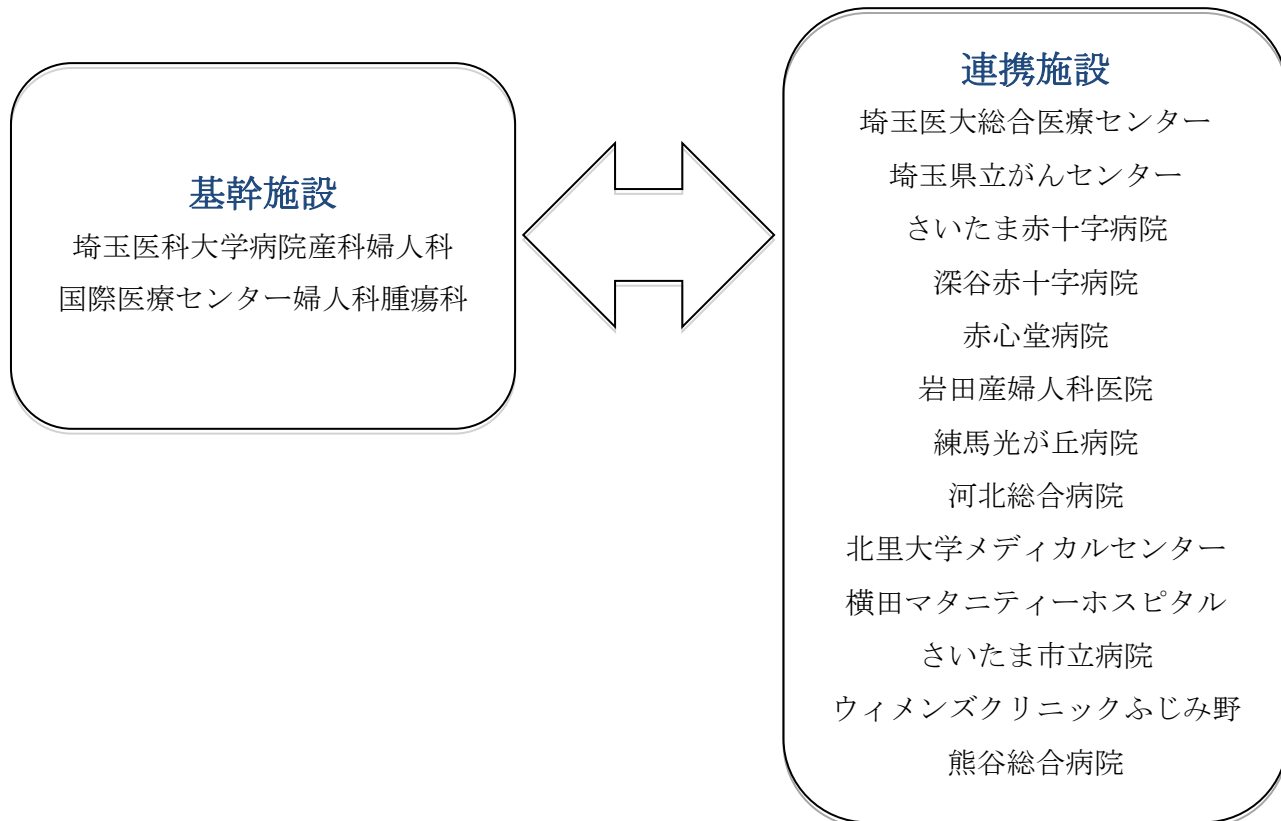


埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラム

A. 埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラムの概要



埼玉医科大学専門研修プログラムでは、埼玉医科大学病院産科婦人科と埼玉医科大学国際医療センター婦人科腫瘍科を基幹施設とし、関連する連携施設とともに研修施設群を形成して、専攻医の指導にあたります。

埼玉医科大学病院産科婦人科では、婦人科悪性腫瘍の専門治療をのぞくすべての産婦人科領域の研修が可能で、各 **Subspecialty** 領域の専門医が指導医として専攻医指導にあたります。

埼玉医科大学国際医療センター婦人科腫瘍科は、包括的がんセンター内にあり、他科との密接な連携をとった婦人科腫瘍領域の研修が可能で、婦人科腫瘍専門医が指導医として専攻医指導にあたります。しかし、大学病院とは異なり、地域性と医療資源に差異のあるさまざまな連携施設における一定期間の研修を行うことにより、専攻医は、産婦人科領域のプライマリーケアをはじめとする大学では経験できない特色ある多様な地域医療を経験すると共に、産婦人科医療に対するニーズの多様性、地域連携、医療機関の機能分担の必要性・重要性も習得することができます。

なお、各産婦人科専攻医の研修施設、期間などについては、個々の希望と各施設の状

況により、埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

B. 埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラムの具体例

埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラムは、3年間の研修により、十分に修了要件を満たし、専門医としての技能を習得し、産婦人科専門医試験を受験することが見込まれます。しかし、病気、出産・育児、留学など、さまざまな理由により3年間で研修を修了できなかった場合には、1年単位で研修期間を延長し、産婦人科専門医試験を受けることもできます。

基幹施設における研修に加え、各連携施設への2ヶ月から1年間のローテーションを行うことを基本としています。各大学病院では産科救急、婦人科救急など搬送例や胎児診断、高度生殖医療などのための紹介例など、高次施設として先端医療について研修することができます。一方、ローテーションにより、それぞれの施設が有する特色ある医療や地域密着型の医療を経験することが可能です。また、医療チームの中で、より中心的な役割を示すことを要求されます。

ローテーションの例1

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 1年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |
| 2年目 | 連携施設 A | 連携施設 B |
| 3年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |

ローテーションの例2（婦人科腫瘍専門医希望）

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 1年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |
| 2年目 | 連携施設 A | 連携施設 B |
| 3年目 | 連携施設（がんセンター） | 婦人科腫瘍科 |

ローテーションの例3（周産期専門医希望）

| | | |
|-----|-----------------|---------|
| 1年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |
| 2年目 | 連携施設（総合周産期センター） | NICU 研修 |
| 3年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |

ローテーションの例4（生殖専門医希望）

| | | |
|-----|---------------|------------|
| 1年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |
| 2年目 | 連携施設（生殖医療） | 連携施設（女性医学） |
| 3年目 | 埼玉医科大学病院産科婦人科 | 婦人科腫瘍科 |

埼玉医科大学病院産科婦人科における専攻医の1週間の業務例を以下に示します。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|--|--------------|------------|-------|-----------------------|----|---------------|----|
| | 臨床検討会 | 症例検討会 | 症例検討会 | 症例検討会 | 外勤 | 症例検討会 (隔週) | 休み |
| | 教授回診 | 初診補佐 | 妊婦健診 | 病棟処置 (小手術/採卵) | | 病棟業務 (隔週) | |
| AM | 分娩当番 | | | | | | |
| <hr/> | | | | | | | |
| | 分娩当番 | 手術 | 手術 | | 外勤 | 帰宅 (14時) | 休み |
| PM | NICU カンファ | 遺伝 カンファ | 当直業務 | 当直明け 午後休み (14時) | | | |
| <p>・早い時期から専門外来での研修もできます！ リプロダクション外来 超音波外来 遺伝外来 女性骨盤底医学センター外来 思春期外来</p> | | | | | | | |

全体カンファランスの予定

- 臨床検討会（毎週月曜：朝）
- 症例検討会（月～土：朝）
- NICU/小児外科合同カンファ（毎週月曜：夕）
- 臨床遺伝カンファ（月1回火曜：夕）
- 放射線科合同カンファ（月1回火曜：夕）
- 膠原病内科合同カンファ（隔月1回月曜：夕）

C. Subspecialty 専門医および学位の取得に向けたプログラム

埼玉医科大学産婦人科専門研修プログラムは、専門医資格取得後における産婦人科領域と関連領域の Subspecialty 専門医資格を取得することを推奨しています。取得のためのトレーニングが可能な資格は以下のものです。当科にはそれぞれの領域の専門医が常勤医として在職しています。

基幹施設での指導体制

生殖・内分泌

生殖医療専門医 6名

周産期

周産期専門医 3名

腫瘍

婦人科腫瘍専門医 7名

女性ヘルスケア

女性医学会専門医 1名

腹腔鏡・子宮鏡

婦人科内視鏡学会認定医 3名

遺伝

臨床遺伝専門医 4名

超音波

超音波専門医 2名

**すべてのサブスペシャリティ領域で
指導体制が充実しています！！**

※常勤医師のみ記載

6

- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医
- ・日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医
- ・日本超音波医学会 超音波専門医

また、医学博士号取得を希望する場合、社会人大学院入学が可能です。同時に専門研修プログラムにおける研修段階から、臨床研究や基礎研究を行うための、研究プロジェクトチームへの関与を推奨しています。

Subspecialty 専門医資格、学位取得後には、海外留学を積極的に勧めています。指導医には過去に海外留学の豊富な実績があり、希望者の要望に応えられると思います。

D. 初期臨床研修プログラムとの関連について

埼玉医科大学産婦人科研修プログラムは、埼玉医科大学初期臨床研修プログラムをはじめ、各産婦人科専攻医が修了した初期研修プログラムにおける研修内容を尊重し、可能な限り各専攻医の習熟度と希望に応じ個別化した専門研修プログラムを提供します。たとえば、初期研修において周産期や成育医療コースを選択し修了した専攻医については、その研修内容により専門研修プログラムをテーラーメイドとすることを考慮します。

E. 雇用条件、待遇

埼玉医科大学産婦人科研修プログラムで研修する専攻医は、産婦人科シニアレジデント(有給常勤医)として雇用されます。埼玉医科大学での身分は教育研究診療員であり、資格は助教となります。

また支援制度として研究活動では社会人大学院生の制度があり、シニアレジデントは助教の身分のままで大学院生として研究活動も同時に行えるシステムがあります。大学院で学ぶことを希望される医師には生活も保障される環境にて研究生活も実現できるようになっています。

さらに女性医師就労支援にも力を入れており、医師として働きたい女性をサポートする目的で女性医師就業継続支援窓口を設置し、院内にある保育所は職員であればだれでも利用できる保育園で、乳幼児を預けて働くことができるよう体制を整備しています。